



つながりづくりの  
新しいアプローチ  
— 高校生の食育推進事業から —

宮城県仙南保健福祉事務所 成人・高齢班

技術主査 鹿内和佳子

主任主査 田村 裕子

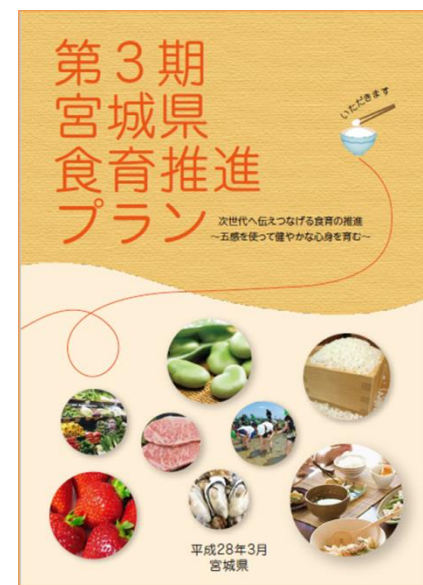
技術主査 門村 弘美

# 第3期宮城県食育推進プラン

- 平成18年11月 宮城県食育推進プラン
- 平成23年 7月 第2期宮城県食育推進プラン
- 平成28年 3月 第3期宮城県食育推進プラン  
(平成28年度～32年度:5年間)

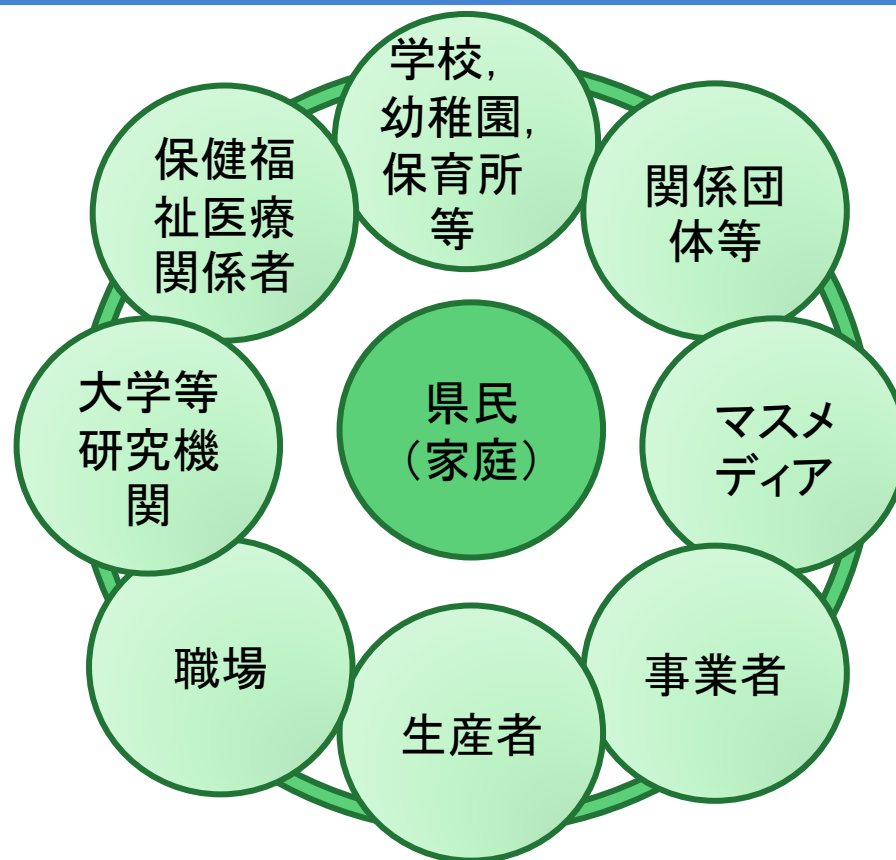
\* 食育とは(食育基本法より)

生きる上での基本であって、知育、徳育及び体育の基礎となるべきもので、様々な経験を通じて、「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てること



# 食育の推進体制と関係者の役割

- 多様な関係者が連携し，県民主体の取組ができる体制を推進
- 食育に関する取組が点から線，線から面へと広がることで，県民一人一人に浸透していくことを期待



連携・協力・支援

# 第3期プランの重点年代は「若い世代」!

- 子どもの食育の推進(概ね18歳以下)  
テーマ「望ましい食習慣の形成と定着」
  - …他の世代に比べて改善が十分とは言えない
  - …県及び市町村における取組みが少ない世代

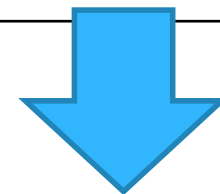
## 取組の方向性

- 食生活リズムや生活習慣の基礎を身につける(幼児期)
- 食前食後のあいさつや箸の使い方, 姿勢など食事のマナーを身につける(幼児期, 学童期)
- 家庭や学校での食に関わる活動を通し, 望ましい食習慣を形成する(学童期)
- 日常の食事の準備や調理できる力を身につける(学童期・思春期)
- 食文化や伝統に関心, 知識を持つ(学童期・思春期)
- 自らの健康に関心を持ち, 栄養バランスに関する判断力や選択力を養う(思春期)

# 当所食育推進事業について①

- 第2期プラン推進期間については、小・中学校と連携し、実施してきた。

年	H24	H25	H26	H27	H28
県プラン	第2期				第3期
当所事業対象	小学生	中学生	中学校	小学生	?



食育を担当する3公所(大河原地方振興事務所, 大河原教育事務所, 当所)で打合せを実施

## 当所食育推進事業について②

### 三公所打合せの結果から

- 当所においても高校生など思春期への取組みが少なかった。
- 管内2市7町すべてに高等学校がある。(計11校)
- 高校生は、健全な食生活を実践し伝える役割を担うための準備期間。
- 高校生は、通学範囲が広いため、地域(学校所在地)への愛着やつながりが希薄になりがち。「食育」によって、地域のことを知る機会になるのでは。
- 高校生は、職業選択を考える時期でもあり、「食育」の体験は、職業の選択肢を広げる絶好の機会となるのでは

今年度から対象を高校生に設定

## 当所食育推進事業について③

高校生への食育



必要性は十分！！

でも…

連携実績が無く、  
どのようにアプローチしたら  
受け入れてもらえるか  
わからない…

# つながりづくりの「アプローチ」①

## きっかけ

### 【 事例1 】

- 大河原合同庁舎に生産物を販売に来ていた高校生に、当所企画案について、インタビュー

興味があります！  
やってみたい！  
などの声…



- 生の声を参考に、企画案を作成し、S高等学校と調整

### 【 事例2 】

- 高等学校と連携した事業実施等について市町から情報収集
- 献血事業で接点がある高等学校(献血会場)があった
- 献血会場を使った啓発が可能か町担当者から情報収集

- 帰路、Z高等学校に電話連絡し、訪問

小さなチャンスを逃さずキャッチ！



# つながりづくりの「アプローチ」②

## 連携先との意見交換

### 【事例1】 S高等学校から

- 「農業と環境」授業内で実施すると授業内容との連動が図れる
- 学校祭前の収量がある時期
- 事業を通して、普段生徒がどのようなものを食べているのか知る機会としたい
- 学校のある町の特色を知る機会としたい

テーマ：野菜摂取量の増加

### 【事例2】 Z高等学校から

- 社会に出るにあたり、地域の方から学ぶ場面を積極的に作っている
- 血色素量が不足して、献血不可となった生徒へ、食事等のアドバイスがあると良い
- タイミングが合えば、協力が可能

テーマ：バランスの良い食事

複数回の打合せにより、丁寧に内容の擦り合わせ

ニーズを共有し、連携先や対象者の負担感は最小限に！

# つながりづくりの「アプローチ」③

## サポート, バックアップ体制

### 【 事例1 】

- **みやぎ食育コーディネーター**  
若い世代への事業実績があるコーディネーターに依頼
- **大河原町(農政課)**  
町食育推進ネットワーク会議委員  
(町計画は今年度から第2期)  
農産物等について説明
- **大河原地方振興事務所,  
大河原教育事務所**  
事業企画への助言等

### 【 事例2 】

- **蔵王町**  
啓発内容の相談, 実施支援
- **宮城県赤十字血液センター**  
当日の流れ(誘導等)の相談
- **大河原地方振興事務所,  
大河原教育事務所**  
事業企画への助言等
- **当所獣疫薬事班**  
宮城県赤十字血液センターとの橋渡し  
等

ニーズに対応するためにも, 協力者の存在は不可欠!

# 連携事業の紹介:【事例1】S高等学校①

- 対 象 1年生2クラス(各クラス1回ずつ) 計80名
- 日 時 平成28年10月7日(金)「農業と環境」授業2校時分  
10:55~12:45, 13:25~15:15
- 連携先 宮城県S高等学校, みやぎ食育コーディネーター,  
大河原町
- 内 容
  - 1 講話「大河原町の農業を知ろう！」  
担当:大河原町職員
  - 2 講話「野菜をもっと知ろう, もっと食べよう！」  
演習「野菜食べていますか?チェックシート」  
担当:当所職員
  - 3 実習「試してみよう!おいしい野菜レシピ」  
担当:みやぎ食育コーディネーター

# 連携事業の紹介：【事例1】S高等学校③

## 【 生徒から(抜粋) 】

大河原町の農業のことが分かって良かった。

野菜の良さを改めてすごく分かった

新しい食事のパターンで楽しかった。  
また合う野菜を探してみたいと思います。

今日の授業はおもしろかったです。  
楽しかったです。おいしかったです。

普段はきけないことが学べ、本当に良かった。次の学習等でいかせるようにこれから頑張りたいと思った。

## 【 先生から(抜粋) 】

普段できない新鮮な体験ができ、事業をやって良かった。

生徒が主体で動く時間(演習等)が長いとより良かった。

来年度も継続して実施したい。  
2クラス→4クラス実施も良いのでは。

その後…  
食に関する授業の相談も

気軽にコンタクトが取れる関係に

## 連携事業の紹介:【事例2】Z高等学校①

- 対 象 1～3年生, 教員の献血協力者 計21名
- 日 時 平成28年11月11日(金)  
9:00～11:00
- 連携先 宮城県Z高等学校, 蔵王町, 宮城県赤十字血液センター, 当所獣疫薬事班
- 内 容 献血協力者の待機時間を利用した啓発
  - 1 食生活診断(町職員, 当所職員が個別相談)
  - 2 塩分クイズ
  - 3 展示(飲料類の砂糖量\*, 菓子類のエネルギー量)  
\* 蔵王町が展示物を準備した。

## 連携事業の紹介：【事例2】Z高等学校③

### 【 生徒から 】

自分が思っていたよりも（カロリーが）多い物もあれば少ないものもあった。

意外なものにも塩分が含まれていて、びっくりしました。少し食事にも気を遣おうと思いました。

自分が毎日食べているたべものがこんなにも食塩が入っているなんておどろきでいっぱいでした。塩がいっぱいの食べものが大好きなので気をつけていきたいです。ありがとうございました。

### 【 先生から 】

今回は献血協力者を対象とした啓発だったが、肥満傾向の生徒も多いので、献血協力者以外にも参加してもらえると良い。休み時間等を利用して、立ち寄る等、工夫ができそうだ。

啓発を受けた生徒の中には、後日他の生徒に内容を伝えている者もいた。

次年度以降も是非実施をお願いしたい。

# 高等学校と連携するための 今年度事業からの課題と今後の方向性

## 課題

### 【 高校生の食の状況 】

事例1・事例2より

- **欠食が多い**  
(特に朝食。夕食の欠食も！)
- **おやつは大好き**  
(間食は菓子、嗜好飲料類)



### 【 事業内容 】

事例1・事例2より

- 生徒が主体的に取り組みやすい工夫がより必要。
- 献血事業における啓発は効果的であるが、実施校が少なく、参加者数が限られる。

## 今後の方向性

- まずは「食事」をとることを啓発する(簡単に自己チェックできるツール等)
- 学校と連携し、テーマについて事前学習(しらべ学習)を実施
- 連携できる既存事業のさらなる開拓

# さいごに…

普段、「当たり前」で、「当たり前前にできていない」こと…

## アンテナを高く情報収集(タイミングを逃さない)

- 従来をつながりのみで事業を考えていては、広がりが無い。
- 業務に直接関係しないことも情報収集する。(いつかつながる!?)
- 時には「生の声を聞く」「とりあえず相談してみる」等も必要である。(失敗を恐れない)

## 連携先と丁寧に調整する(ニーズの共有)

- 連携先とニーズが一部でも合致すれば、実施に至る可能性は高い。
- 連携先や対象者の負担感が最小限になる工夫をし、受け入れやすくする。

## 連携先のニーズへの対応(協力者・機関とのコミュニケーション)

- 市町、食育コーディネーター、他公所(他班)等との小さなことから相談できる関係づくり。

**「思い切った行動力」や「柔軟な発想力」**